

C-2 韓国の婦人服の衛生学的研究 (第1報) 韓服の保温力を中心として
奈良女大家政 O 崔正和 水梨サワ子

目的 韓服の衛生学的考察の一步として 先ず保温力を検討するため, I B P 衣服調査様式に基づく 韓国婦女子の衣生活実態を把握し, その結果を基礎として, 着用実験を行って, 今までの感覚的, 觀念的な保温性も clo 値で 確かめる為である。

方法 実験は 1973年4~5月, 7~8月, 10~11月, 1974年1~2月(春, 夏, 秋, 冬:
 21 ± 1 , 26 ± 1 , 21 ± 1 , $16 \pm 1^{\circ}C$) 年4回 人工気候室において, 成人女子2名について,
各季節別2種類ずつの韓服着装による 椅座安静1時間の皮膚温(前額, 胸部, 腹部,
前膊, 大腿, 下腿の6点)と衣服表面温および湿度(最内層, 中内層, 衣服表面の
3個所), 皮下温, 体重(減), 産熱量について測定し, clo 値を算出した。

結果 以上の 実験結果から得た 韓服の季節別 clo 値は次の通りである。
春 $2.58 clo$, 夏 $1.60 clo$, 秋 $2.24 clo$, 冬 $3.11 clo$,
なお 韓国 Seoul を 中心にした東畿道地方の外気温は 春 $11.4^{\circ}C$, 夏 $23.5^{\circ}C$, 秋
 $13.8^{\circ}C$, 冬 $-1.8^{\circ}C$ であって, これと総合して考察すると 春秋, 冬の韓服は 衛生的に
妥当と考えられるが 夏の clo 値は 一般に云われている値より高く, 韓服には 夏
期服装として問題点のあることが 明確になった。